

千葉県

シニア災害とボランティア
講演報告

平成25年1月7日(月) 及び8日(火)、
ホテルポートプラザちばにおいて、千葉県
地方職員共済組合千葉県支部、県庁生活
協同組合が主催、当協会が後援する「千葉
県平成24年度ゴールドライフセミナー」が
開催されました。

セミナーでは、特定非営利活動法人レス
キューズストックヤードの栗田暢之代表理事
による基調講演「シニアと災害ボランティ
ア」が行われました。

今回は、阪神・淡路大震災、東日本大
震災などでのボランティア経験を通じて、
シニア世代のボランティアの必要性につい
てご講演いただきました。

なお、講演の概要は次のとおりです。



栗田 暢之 (くりた のぶゆき)

特定非営利活動法人レスキューズストックヤード
代表理事

阪神・淡路大震災でボランティアのコーディネー
トを務めて以降、自然災害の現場で支援活動を
展開。現場での学びを生かし、地域防災力の向
上や災害ボランティアの育成等に尽力している。
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) 代
表世話人、愛知県被災者支援センター長のほか
京都大学防災研究所や名古屋大学大学院での非
常勤講師なども務める。

基調講演

シニアと災害ボランティア

「東日本大震災 足湯ボランティア
活動」について

特定非営利活動法人

レスキューズストックヤード代表理事

栗田 暢之氏

足を湯につけていただき、腕や手をほぐ
す。すると心まで温かくなり、色々とお話
をしてくれる。それを「つぶやき」と呼ん
でいるそうです。私たち、レスキューズス
tockヤードを含む全国の災害ボランティア
団体らが協力して、東日本大震災の被災地
に「足湯ボランティア」を送り続け、これ
まで1万人以上の足を温めてきました。そ
こで聞いた「つぶやき」は、被災者の方の
本音であり、愚痴であり、不安や悩みでも
あり、また将来の夢であり現実でした。

現地に行つて、人と話をして、一緒に笑
つて一緒に泣いて、心の支えとして寄り添
つて「本当に大変でしたね」という言葉を
掛け合うことを目指しています。

●より深刻な原発事故による「被害者」の
声から

・高速道路の無料化終了後、金銭的に負
担が増え、福島に残る父親と子どもが会
える頻度が減少した。

・育った環境の違いだと思いが、会話、行
動が都会のペースについて行けず、子ど
もの学力低下に悩んでいる。クラスの子
どもからも暴言を浴びせられている現場
を直接目撃し、親として辛かった。

・避難者支援のご招待などを頂けるのは有
り難いことだが、一般客に混じつての鑑
賞後、「福島」のプラカードを持ったス
タッフの後ろについて移動させられ、ま
るで見せ物にされているようで傷ついた。

●震災から1年10か月を経た
被災地全体の課題

(1) 当初の「衣、食、住」↓「居(医)、
職(収入)、住(恒久)」+「生きがい」





Ⅱ 将来への不安と夢・希望が交錯している。

- (2) 在宅、仮設、みなし仮設、県外避難等、同じ被災者に対する支援に濃淡がある。
- (3) 自力での再建が困難な方が取り残されるなど、時間の経過とともにますます個人差が顕著になっている。
- (4) 10年後の「まち」をどうしたいのか、どうあるべきなのかについて、なかなか見えてこない。
- (5) 拡大する被災地域間格差と震災の風化、世論の忘却。
- (6) 地震、津波、原発、風評、風化、消費など福島はより深刻化している。

● 私たちにできること

- (1) ボランティア活動でなくても、東北観

光や会議・研修の場として現地に行く。

- (2) 「東日本大震災支援全国ネットワーク」ものづくり情報」などを活用して、現地のものを購入する。
- (3) 県外に避難されている方の支援を行う。
- (4) 「何もなかったように、このまま自分たちのことを忘れ去られることが一番怖い」の声に応え、心だけでも応援し続け、忘れない、共に考える。

● 災害・減災サイクルについて

1. 平常時の大切な活動

- (1) 被害防止……被害そのものが発生しないようにするための活動
- ① 災害で「死なない、大ケガをしない」ための事前対策をする。
- ② 次世代の子どもたちに、過去の災害のことを話し、地名の由来や昔のくらし「生きる知恵」を授ける。
- (2) 被害軽減……被害を軽度にとどめ、拡大を防ぐ活動
- ① 元気な高齢者が、本当に支援を必要としている高齢者を支える。
- ② 災害時要援護者への支援を行う。
- ③ 地域の長老ご意見番または、井戸端談義の名人として、「地域が大切だ」と言い続ける。
- ④ 災害対策は行政だけでは限界があるため、減災に向けた住民参加が必要である。

2. 災害時の大切な活動

- (1) 応急対応……生き残った者同士、災害直後の人命救助や応急医療措置、消火・水防などの活動
- (2) 復旧・復興……災害からの回復や再建のための活動



以上のように、シニアと災害ボランティア活動について重要事項が述べられました。その他、今年で発生から18年を迎えた阪神・淡路大震災での悲しいエピソードが紹介されました。それは、両親と女の子2人の4人家族の話。あの日突然発生した大地震で、家族は長女を失ってしまいました。それから10年が経った時に、母親が亡くなった長女に宛てて書いた手紙が朗読されると、参加者の中には涙する人の姿も見られました。

講演では、災害が起きる以前からの対策や準備の大切さが繰り返し述べられ、改めて防災活動の重要性を知る機会となりました。